

- 7日、ヤヌコーヴィチ大統領のカザフスタン訪問
- 8日、憲法裁判所は、個人議員の与党連合参加を合憲と認定

A. 主な動き

1. 内政

▼与党連合に関する憲法裁判所判決

- ・8日、憲法裁判所は、政党ではなく個人議員による与党連合結成を合憲と認定。
- ・8日、マルティネンコNUNS代表は、憲法裁判所の決定は政府の法律違反を導くものと批難。
- ・9日、ヤツェニューク「変化の前線」代表は、憲法裁判所の与党連合結成に関する判決は、大統領に議会解散権を与え、最高会議選挙実施の条件を整えるものと発言。

▼政府人事

- ・6日、ヤヌコーヴィチ大統領は、アザーロフ首相、ボハティリョーヴァ国家安全保障国防会議書記、グリシチェンコ外相、エジェリ国防相、ラヴリノーヴィチ法務相、リトヴィン最高会議議長、リョーヴァチキン大統領府長官、メドヴェジコ最高検事、モギリョフ内務相、ステリマフ国銀総裁及びホロシコフスキー保安庁長官の国家安全保障国防会議新メンバーを発表。
- ・9日、ヤヌコーヴィチ大統領は、プストヴォイチェンコ元副首相及びブブカ・ウクライナオリンピック委員会代表を補佐官に任命。

▼その他

- ・6日、ヤヌコーヴィチ大統領の補佐官に就任したポルトノフBYT議員は、与党連合に加盟せず、議員全権返上の申請を提出し、政治活動を終了したと発表。
- ・7日、憲法裁判所は、最高会議が提出した議員不可侵権削減に関する憲法改正案に関し、大統領の不逮捕特権を廃止する改正は違憲と判断。憲法裁判所は理由を「現行の憲法が大統領の逮捕時の全権移譲を想定していないため」と説明。

2. 経済

▼マクロ経済

- ・6日、国家統計委員会は、3月の消費者物価指数が0.9%の上昇であったと発表。主に食品、非アルコール飲料における値上げの影響。なお、1-3月期におけるインフレ率は4.7%。

▼EURO2012

- ・3日、ヤヌコーヴィチ大統領は、大統領令により、EURO2012調整審議会を廃止し、同準備委員会を創設。同準備委員会にはアザーロフ首相、コレースニコフ副首相、サフィウリン家族・青年・スポーツ相、グリシチェンコ外相、エジェリ国防相、ヤロシェンコ財務相、ツシュコ経済相、ムイトニク保健相、

リョーヴァチキン大統領府長官等が参加。

- ・7日、コレースニコフ副首相は、閣僚会議はEURO2012のために260億グリブナを予算案に計上予定と発言。
- ・7日、リヴィウのスタジアム建設会社がアゾフインテックス社からアルトコム社(ドネツク)に変更。同社はリヴィウのスタジアムの建設を4月末までには開始と発表。
- ・7日、閣僚会議はリヴィウのスタジアムの所有者をリヴィウ市から国に変更と発表。

▼その他

- ・6日、リャブチェンコ国家財産基金総裁は、国有財産の民営化に関する新計画作成業者選択のための入札を実施予定と発表。また、2010年には100億グリブナ相当の民営化を実施予定であるとも発言。
- ・6日、アントノフ社は、チリ、アルゼンチン及びペルーがアントノフ社と航空機製造等における協力に関する協定を締結したと発表。
- ・6日、クリューエフ第一副首相は、輸入天然ガス代金が決定していないため、閣僚会議は2010年予算案を4月12日に協議。4月12日から14日の間に最高会議に提出予定と発言。また、これらの予算案は財政赤字6%という条件に沿ったものである、2010年末にはGDP成長率は2007年におけるレベルに達するであろう、とも発言。
- ・7日、ゴルブチェンコ・キエフ市第一副市長は、閣僚会議が2010年度予算案において、キエフの社会インフラ整備に8億1500万グリブナを計上予定であると発表。同予算はモスコフスカ広場と高速路面電車の改修用に用いられる予定。なお、地下鉄3路線及びポディール橋建設は来年度に再開予定。
- ・7日、クリューエフ第一副首相は、2010年度予算案の赤字額はGDP比4.5-5%の間となる予定であり、政府は予算のギャップを埋めるために内国債発行を含めた様々なメカニズムを用いる、と発言。
- ・8日、クリューエフ第一副首相はウクライナとベラルーシが4月15日にキエフにて第18回貿易・経済協力二国間委員会を開催予定と発表。

▼ガス問題

- ・3日、ストックホルム仲裁裁判所は、ロスウクルエネルゴ社がナフトガス社に20億ドルの損害賠償を求めている件につき、20億ドルのうち1億9千7百万ドルを支払うよう命ずる判決を発表。

・6日、クリューエフ第一副首相は、対露天然ガス代金が値下げされなければ、ウクライナは経済危機から脱出することが厳しくなり、1千立方メートルあたり300ドルを超える高額なガス代金は特に化学金属産業及び公共住宅分野の足枷となっているとコメント。

・6日、ナフトガス社は3月分の対露天然ガス代金の支払いを完了したと発表。

・7日、欧州委員会は、ガス輸送コンソーシアムに関しウクライナ側からは具体的な提案は受けていないと発表。

・9日、ミレル・ガスプロム社長は、ガス輸送コンソーシアムに関し、現在ガスプロムは右プロジェクトに関心があり、参加の提案が(ウクライナより)正式になされるのであれば検討する用意があると発言。

・9日、ウクライナの1～3月の天然ガス採掘量は前年同期比で9.1%の減少との統計発表。

・9日、ガスプロムは正式に「ノルド・ストリーム」の建設開始を発表し、メドベージェフ露大統領、バルケネンデ・オランダ首相、シュレーダー元独首相等が参加するレセプションを開催。

・9日、アザーロフ首相は、2010年第2四半期の対露天然ガス代金が1千立方メートルあたり348～350ドルになり、企業向け販売価格は70ドルの付加価値税及び30ドルの輸送量が変わり、およそ450ドルになり、これでは企業の活動ができなくなると発言。

3. 外政

▼7日、ヤヌコーヴィチ大統領のカザフスタン訪問

・ナザルバエフ・カザフスタン大統領と会談。

・ヤヌコーヴィチ大統領は、カザフスタンとの関係はユーラシア地域における外交優先事項の1つであると発言。カザフスタンと協力して、ウクライナの港に穀物ターミナルを整備することに関心を持っている、カザフスタンから欧州向けの石油輸送量を600万トン増やす用意があるとも発言。

・相互訪問手続きの簡素化、宇宙分野及び穀物・ガス分野における協力につき協議。ウクライナ人はカザフスタンに5～90日間登録なしで滞在可能に。

▼8～9日、ビルト・スウェーデン外相のウクライナ訪問

・スウェーデン外相はヤヌコーヴィチ大統領、アザーロフ首相、グリシチェンコ外相と会談。

[ヤヌコーヴィチ大統領の発言]

・ウクライナはロシアから消費国へのガス輸送を滞りなく行うことを保障する。

・最優先課題は社会保障費の削減、国家支出の最適化、汚職対策。

・外交はプラグマティックで、互恵的で、善隣の原則に則ったものであるべき。

・ウクライナはEUと共同で今年末までにFTA合意及びウクライナ向け査証免除を達成するロードマップを策定。

[グリシチェンコ外相との会談]

・双方は 活発な政治対話及び経済協力、スウェーデンの対ウクライナ技術支援の進捗に満足を表明。

・双方は、ウクライナのEU加盟、民主改革、省エネ及び代替エネルギーに向けたプログラム実施分野における協力関係を高く評価。

・双方は共通の関心事項(EUウクライナ連合協定、2011年5～11月におけるウクライナの欧州評議会外相委員会議長国就任、OSCE関連事項)を協議。

▼9日、ラヴロフ露外相のウクライナ訪問

・9日、グリシチェンコ外相とラヴロフ露外相は無名戦士の記念碑に献花の後、会談を行い、二国間関係強化の問題、経済貿易協力の展望及び終戦65周年記念日の進捗状況等につき協議。ヤヌコーヴィチ大統領は、ロシアがウクライナの戦略的パートナーであり、両国にとって利益のある一連のプログラムをメドベージェフ露大統領の訪問時に検討する予定と発言。両国は、一部国民の入国拒否は個別に対応すること、また陸上部分の両国国境画定に関する問題の実務処理に関しても合意。

▼その他

・5日、ヤヌコーヴィチ大統領はロシアを非公式訪問、メドベージェフ露大統領と会談し、二国間協力の展望等につき協議。

・8日、欧州委員会は、ウクライナとの連合協定に関する協議が一年以内に終了する見込みであるが、FTAについては今後も更なる協議が必要と発表。

4. 防衛

▼黒海艦隊駐留問題

・8日、リトヴィン最高会議議長は、露黒海艦隊が2017年以降もセヴァストポリにおける駐留を継続するか否かはウクライナの経済的利益に基づいて決定されなければならないと発言。

▼NATO

・6日、ヤヌコーヴィチ大統領は、国家安全保障国防会議の会合において、NATOとの協力計画は短期的なものから中期的なものへ切り替えるべきであると発言。

・6日、ホンチャルク大統領府副長官は、NATO加盟準備省庁間委員会の廃止はNATOとの協力停止を意味するものではないと発言。

・8日、グリシチェンコ外相は、ブレンゲルマンNATO事務総長補と会談。グリシチェンコ外相は、内政及び外交政策におけるウクライナ新政府の最優先事項を説明するとともに、ウクライナはNATOとのパートナー関係の更なる発展と実務的協力に関心を有していると発言。ブレンゲルマンNATO事務総長補は、新たなウクライナ大統領・政府との積極的な関係を促進させたいとするNATO側の希望を説明。

・8日、スヴィダ参謀総長兼ウクライナ軍司令官は、NATO国際軍事参謀部長ゴデリー中將との会談の際、ウクライナ側はロシアとの友好的な関係を維持する一方で、NATOとの協力を強化し深化させることを約束すると発言。

▼ロシア海軍への空母飛行訓練コンプレックスの提供
・軍事外交筋は、今夏、ロシア北洋艦隊の海軍パイロットはクリミアのニトカ空母飛行訓練コンプレックスで訓練を再開することが可能になるだろう、一方ロシア・クラスノダール地域イェイスクにおける類似のセンターの建造は継続するだろうと発言。

▼アフガニスタンへの追加要員派遣準備

・8日、スヴィダ参謀総長兼ウクライナ軍司令官は、NATO国際軍事参謀部長ゴデリー中將との会談の際、ウクライナは5月に4名の爆発物処理の専門家を、11月には更に3名をアフガニスタンに派遣する用意があると発言。

▼戦勝記念日パレード

・8日、エジェリ国防相は、5月9日に実施される第65回戦勝記念日のパレードにロシア軍人が参加する予定であると発言。更に、露黒海艦隊の艦船5隻が海軍パレードに参加す

る予定であるとコメント。

5 . 二国間関係

▼6日、伊澤大使のツシュコ経済相表敬

・貿易、経済協力等について協議。ツシュコ経済相は、ウクライナは日本にとって予測可能で信頼のおける国であったし、今後もそうあり続ける、と発言。また、日本からの経済協力に対し感謝の意を表明。伊澤大使は様々な分野における互恵関係の拡大に対する期待を表明。

▼9日、伊澤大使のグリシチェンコ外相表敬

・会談では、2010年の二国間ハイレベルの訪問に対する相互の関心が表明され、日本の対ウクライナODAプロジェクトの進捗など日・ウクライナ関係の主な問題が協議された。

B . その他の動き

4 / 7 (水)

・国防省プレス・サービスは、ウクライナ及びデンマーク軍が、グリーンランドへの燃料等空輸のため「Northern Falcon 2010」作戦を実施中であると発表。

・ウクライナ海軍プレス・センターは、ウクライナ海軍艦船「スラブチッチ」が黒海海軍協力グループ(ブラックシーフォー)の演習に参加するため本日ヴァストーポリを出発する予定であると発表。

4 / 8 (木)

・露海軍報道官は、露黒海艦隊揚陸艦「ツェーザリ・クニコフ」がブラックシーフォーの演習に参加するため本日セヴァストーポリを出発する予定であると発表。

4 / 9 (金)

・エジェリ国防相は、NATO国際軍事参謀部長ゴデリー中將との会談において、ウクライナは余剰弾薬処理においてNATOの支援を期待していると発言。

・外務省プレス・サービスは、1月2日にソマリア沖で海賊に拿捕された「アジア・グローリー」には十分な食料と水があると発表。25名の搭乗員の内、10名がウクライナ人。

(了)